京都産業大学　マスタープラン

平成30年9月14日

注意：将来建築する建物イメージ図は、本学敷地の建蔽率、容積率、風致地区規制、過去の建物の形状を元に、予想イメージ図を作成している。
実際に建築する場合は、その規制のルールに沿って再設計するため、形状などは異なることご承知おきください。
建物の名称は、過去のマスタープランで提出した名称を継承している。実際の利用用途には合致していない場合がありますこと、ご承知おきください。

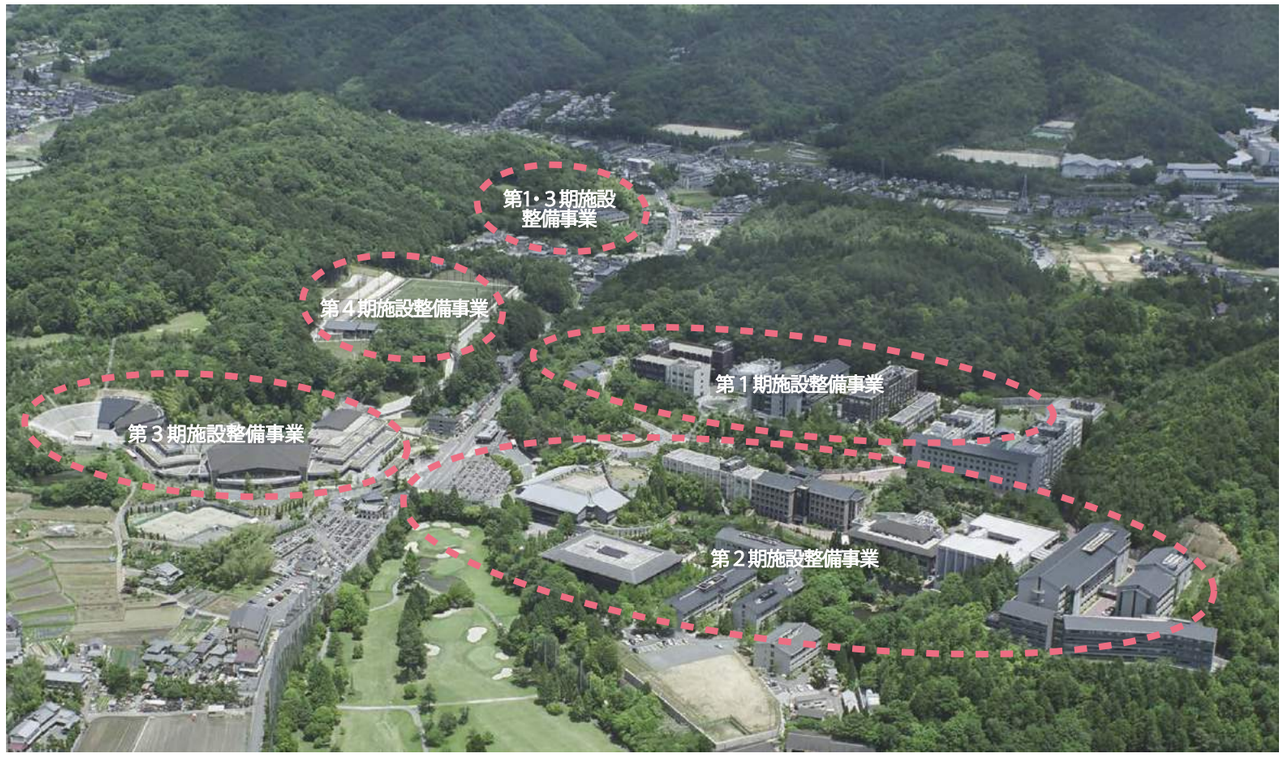
目　次

これまでのキャンパス整備 ： 第１期から第４期までの整備概要(1) …… 1
これまでのキャンパス整備 ： 第１期から第４期までの整備概要(2) …… 2
今後のキャンパス整備 ： 第５期キャンパス整備の概要 …… 3
今後のキャンパス整備方針 ：「神山自然学園構想」 …… 4
キャンパス現況写真 …… 5
キャンパスの法規制 ： 用途地域 ・ 高度地区の状況 …… 6
キャンパスの法規制 ： 風致地区等 …… 7
キャンパスの法規制 ： 眺望景観 …… 8
地区計画について …… 9
地区計画について …… 10
デザインコードについて …… 11
本山地区の整備シミュレーション図 …… 12
整備状況 …… 13
眺望景観について …… 14
キャンパスが見える箇所の確認景 …… 15
観シミュレーション選定箇所 …… 16～19

1. これまでのキャンパス整備：第１期から第４期までの整備概要（1）

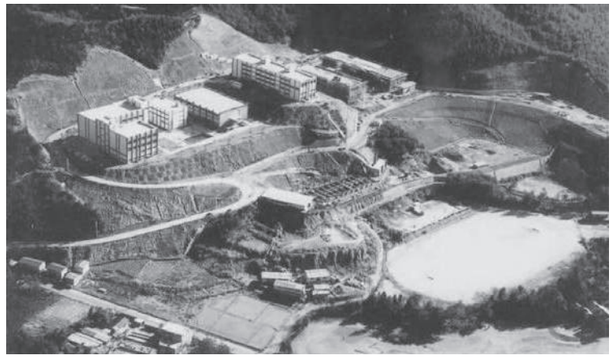
<これまでのキャンパス整備の流れ>

本学開学以来これまでの４期に渡るキャンパス整備事業では「学園庭園化構想」の理念に基づき、第１期･第２期キャンパス整備事業において本山地区一帯の教学ゾーン、研究･実験ゾーンの整備を、第３期キャンパス整備事業においては神山地区一帯の体育･課外活動ゾーンの整備を、第４期キャンパス整備事業においては第３グラウンド（神山球技場）をはじめとした教育、課外活動環境の整備を行いました。開学以来、大学創設事業として進めてきた第１期から４期までのキャンパス整備事業は、平成 19（2007）年度をもって終了しました。



<景観形成と森林保存>

本学開学時にあたる昭和 40 年代には、初期の施設整備の為多くの土地が切り拓かれ、広大な自然林を伐採しました。その結果、上賀茂神社のご神体である「神山」の麓にも関らず周辺は荒涼とし、必ずしも周囲の景観に相応しい状態とは言えませんでした。しかし、これまでの施設建設毎に逐次行ってきた植林の成果もあり、キャンパスは今ようやく自然林と見紛う程の植栽に覆われることとなりました。



開学当初（1966 年撮影）

現在（2007 年撮影）

第１期から第４期までの整備概要（1）

■ これまでのキャンパス整備の流れ

○第１期・第２期整備では本山地区における教学・研究・実験ゾーンの整備を、第３期整備では神山地区における体育・課外ゾーンの整備を、第４期整備では第３グラウンド（神山球技場）をはじめとする教育、課外活動環境の整備を行う

■ 景観形成と森林保存

○既存森林の保全と上賀茂神社、神山からの景観を損なわない計画

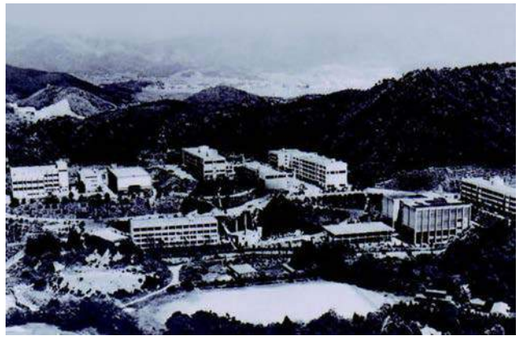
第１期施設整備事業時における
キャンパス景観

2. これまでのキャンパス整備：第１期から第４期までの整備概要（2）

1965

第１期キャンパス整備の概要（昭和 40（1965）年－昭和 54（1979）年）

景観、環境等の規制が現在ほど厳しい時代ではなかったため、創設時の本館、各教室棟、研究棟、グラウンド等は、一般的な開発事業として整備を行いました。当時は、キャンパス周辺に粗々しい造成面が露出した状態でしたが、大学創設後設置された緑化委員会による建物周辺や法面への樹木の植栽によって、現在では自然林と見間違うばかりの自然景観が生まれることになりました。



本山本部地区の整備（教学ゾーン）

- 総合グラウンド
- 五常寮
- 第２グラウンド
- 第２体育館、神山寮、津の国寮、追分寮
- 第１研究室棟

第２期キャンパス整備の概要（昭和 55（1980）年－平成４（1992）年）

開学のあと、しばらくは量的拡大に対応するため建築ラッシュが続きましたが、第１期キャンパス整備が終わる頃になるとそれも小休止に入りました。キャンパスは当初の敷地より西へ、南へ伸びることとなりました。昭和 50 年代に入ると、「学園庭園化構想」の具現化として教学面の充実に向け中央図書館、研究・実験室棟、神山ホール等を建設しました。またキャンパス全体の環境整備については「観山庭」に代表されるランドスケープ（植栽を含む全体的な造園・環境）整備を行いました。

本山本部地区の整備（研究・実験ゾーン）

- 中央図書館
- 第１、第２実験室棟（第１実験室棟増築）
- 第２研究室棟
- 神山ホール
- ９号館

第３期キャンパス整備の概要（平成５（1993）年－平成 11（1999）年）

大学規模拡大に伴い、敷地の拡大及び課外活動施設の充実が必要となりました。本山地区では充分な敷地を求めることが不可能であったため別の場所での整備も考えましたが、あくまでも「課外活動は正課と両輪をなす」という理念に基づき、大学機能一拠点化計画を見据え隣接する神山地区を中心に整備を進めました。第３期計画の骨格をなす整備は、体育館、練習室等の運動施設、体育系の研究・実験室、体育系・文化系クラブの部室、文化系の練習室等の建設と、多くの自然林を有する環境整備であり、事業内容は第２キャンパス建設に近いものとなりました。その後、特高電気設備の完成、キャンパス情報拠点となる 10 号館の完成、11 号館・新８号館の完成などによって本山地区の施設整備も更に充実し、「学園庭園化構想」の骨格が形成できました。

神山地区の整備（体育・課外ゾーン）

- 総合体育館、課外活動棟
- 第３研究室棟、神山研究室棟
- 市原テニスコート
- 新８号館
- 国際交流会館
- 10 号館、11 号館

第４期キャンパス整備の概要（平成 12（2000）年－平成 19（2007）年）

第３期計画から継続する教室、研究室の不足を解消するための施設整備（第４研究室棟、12 号館など）と平行して、開学当初に建設した建物の建替え・改修・整備といったリニューアルを実施する第４期事業を平成 12（2002）年度から開始しました。平成 16（2004）年に竣工した新５号館については、開学当初に建設した建物を撤去し、同じ場所に規模・機能を一新して建替える最初の事例です。また、国有林の払い下げを受け開発を進めてきた神山キャンパス第３グラウンド・管理棟が平成 19（2007）年２月に完成し、同時に進めていた本山学生ホール移転施設、屋内野球練習場の新築と併せてここに第４期施設整備計画が完了することとなりました。第４期施設整備計画により、文武双方の施設は更に充実し、大学創設から進めてきた大学施設の基盤整備は一応の完結を迎えました。

生活、教育基盤・環境の整備、課外活動環境の整備

- 松ノ浦セミナーハウス
- 総合グラウンド管理棟他
- 12 号館、新５号館、13 号館（ロースクール棟）
- 第３グラウンド（神山球技場）
- 管理棟
- 第４研究室棟

2007

3. 今後のキャンパス整備：第５期キャンパス整備の概要

第５期キャンパス整備の概要（平成 20（2008）年－平成 35（2023）年）

平成 27（2015）年の開学 50 周年に向けた第 5 期キャンパス整備では、「神山自然学園構想」に基づき、教育・研究施設の集約と高機能化、周辺からの眺望景観や自然環境の保全、更に京都市民や地域との連携も視野に入れながら、キャンパス整備を行います。
この構想に基づき、新しい時代に向けた新学部の為の施設整備と築後 50 年を迎える既存施設のリニューアルという新旧双方の施設の共存共栄をハードの面における一つの主題とします。
一方ソフトの面においては地域との共生を理想とするキャンパス整備を推進することを重要な主題と位置づけつつ、既存の恵まれた環境を最大限活用したキャンパスアメニティ（キャンパス空間・学習環境）の整備・充実を図ります。
加えて、自然環境の保護と良好な眺望景観の保全を図り上賀茂・神山の地にふさわしいキャンパスとします。

地域と共に歩むキャンパス空間の創造

- 学内インフラ整備（バスプール整備等）
- 新学部設立
- 新施設設置（天文台設置等）
- 既存施設の建替・拡張（図書館拡張等）
- 学生寮の新築（新追分寮の設置等）

2008 → 2023

＜社会のニーズに応える新学部の設置＞

本学は、建学の精神に基づいた人材を育成するために、1965(昭和 40) 年の開学以来、一貫して先進的かつきめ細かな教育を展開してきました。
本学の教育の特徴は、「より良い教育はより良い研究から」をモットーに、各教員の世界的に評価された研究成果が学部教育・大学院教育に還元されていることです。大学を取り巻く環境が激変している中で、社会が求める高度な人材を育てるためには、この特徴を生かしながら知識偏重型から知識活用型に教育の軸足を移すと同時に言語能力を鍛え、国際通用性も高めていく必要があります。そのためにも、正課学習では、特にゼミ等（演習・特別研究等）において、課題解決能力、主体性、協働性等の力を養成し、全ての学生が希望する進路に進めるように支援をします。さらに、準備学習での反転授業の導入等、ICT の利用を促進し、BYOD(Bring Your Own Device) を活用した教育環境の充実を図ります。集中的な学びや教室外の学び（留学、フィールドワーク、長期インターンシップ等）を促進するため、４学期制の積極的な導入や、正課外においても、クラブ活動、資格取得、国内外コンテストへの参加、起業等、モチベーションの維持高揚を後押しするために、経済的支援を含めた、多くの成長機会を提供していきます。
これらの改革を進めながら、社会の新たなニーズや環境変化に対応するために、2017(平成 29) 年度には、現代社会学部を新設しました。今後は既存学部･学科を再編し、新学部の設置を含め、他の教育研究機関との関係を強化し、教育環境の拡充と同時に他の専門教育領域を取り込み、学生数 15,000 名を擁する日本を代表する私立大学として「選ばれる」大学を目指しています。

＜既存校舎の機能充実とリニューアル＞

本学開学時の第 1 期施設整備において建設された校舎が数年後には築 50 年を順次迎えます。開学初期に建設された施設は時代の急速な進展に伴い、ハード、ソフト両面において現状の使い手側の実情にそぐわなくなっています。また施設外観に関しても「学園庭園化構想」を基本としてきましたが、建築デザインに関してはとりわけ重要視することなく整備を行ってきたこともあり、必ずしもこの地に相応しいものとなっておりません。今後、各施設をキャンパスの総合的な景観デザインに適合させながら本館を始め、1 号館、6 号館、4 号館を建替えていきます。

第５期キャンパス整備の概要

- ○ 大学の基盤整備から新学部の為の施設整備と既存施設リニューアルへの移行

■ 社会ニーズに応える新学部・学科の設置

- ○ 新学部の設置、新しい研究分野への取組み

↓

新学部・学科改組により教員の増加などを踏まえ、研究室の設置や建て替え更新において延床面積の増加が必要である。

■ 既存校舎の機能充実とリニューアル

- ○ 築 50 年を迎える施設を順次リニューアル

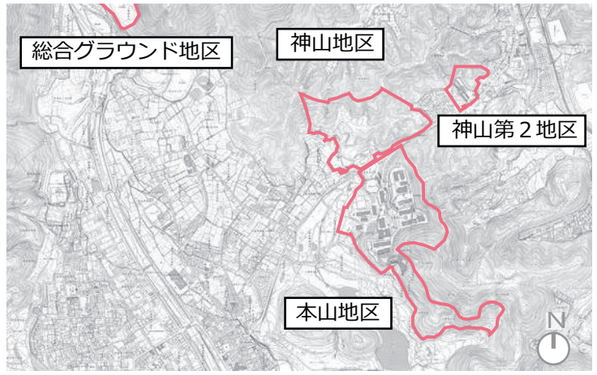
4. 今後のキャンパス整備方針：「神山自然学園構想」

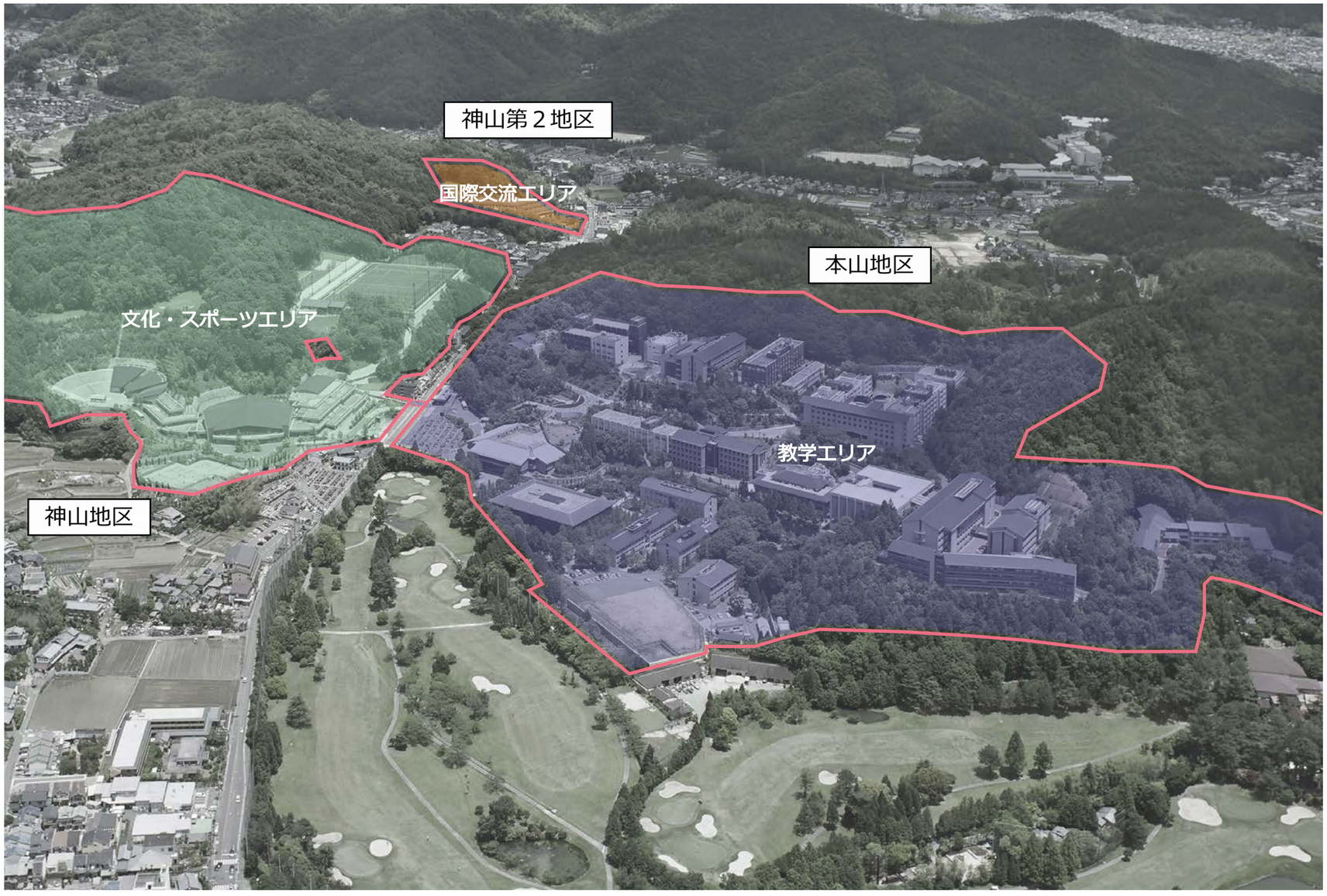
神山自然学園構想における基本コンセプト

① 機能の集約化と高機能化を図ります
② 自然環境の保護と良好な眺望景観の保全を図ります
③ 京都市民や地域住民との連携を強化します

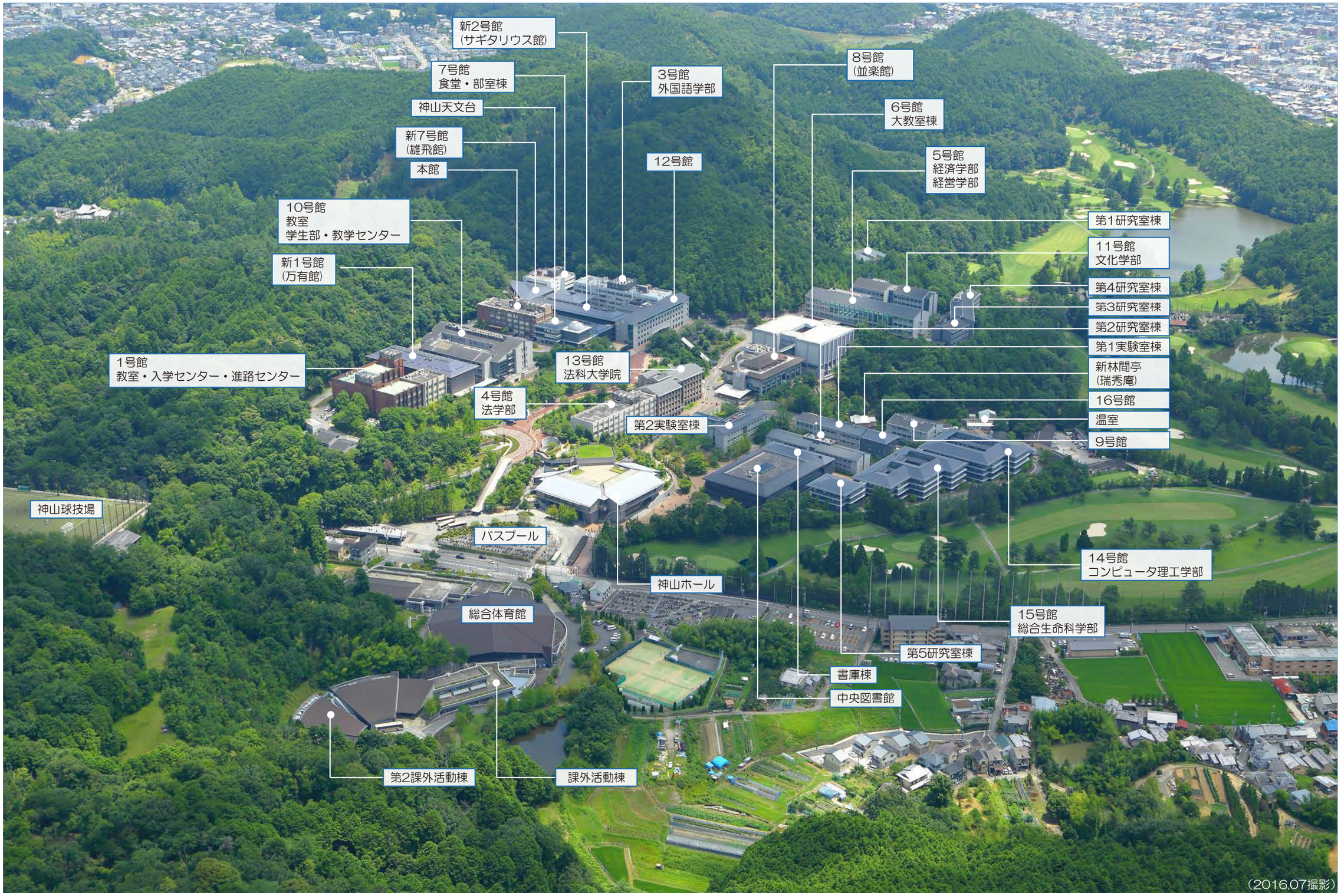
→

「本山地区」は“教学エリア”として、教育・研究のための施設を集約させます。
「神山地区」は“文化・スポーツエリア”として、課外活動の中心の場として整備を行います。
「神山第２地区」は“国際交流エリア”として、異なる国々の文化に触れる環境を整備します。



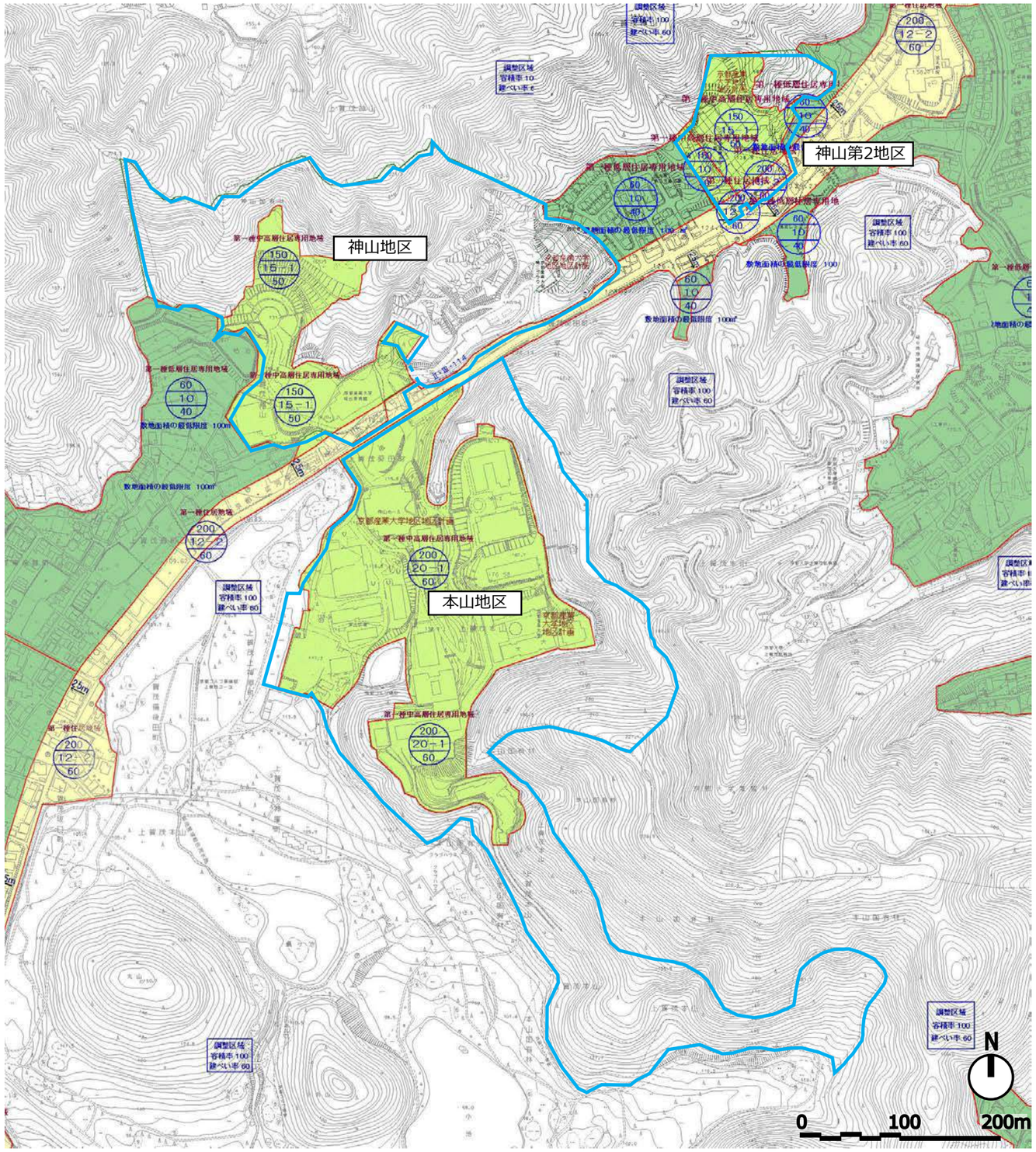


5. キャンパス現状写真



撮影　平成28年7月撮影

6. キャンパスの法規制：用途地域 ・ 高度地区の状況



敷地境界線

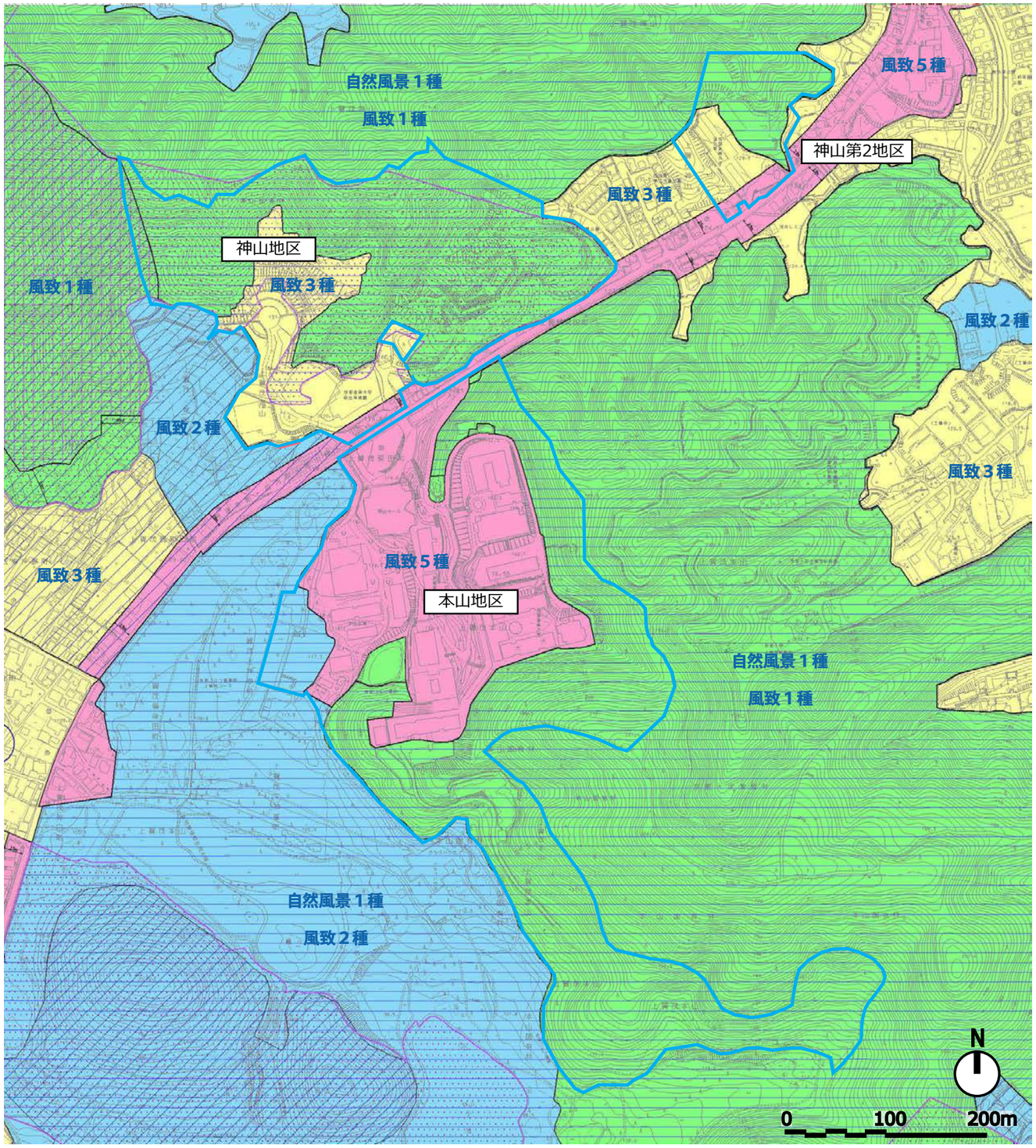
第一種低層住居専用地域

第一種中高層住居専用地域

第一種住居地域

容積率（%）
高度地区の種別
建蔽率（%）

７．キャンパスの法規制：風致地区等



敷地境界線

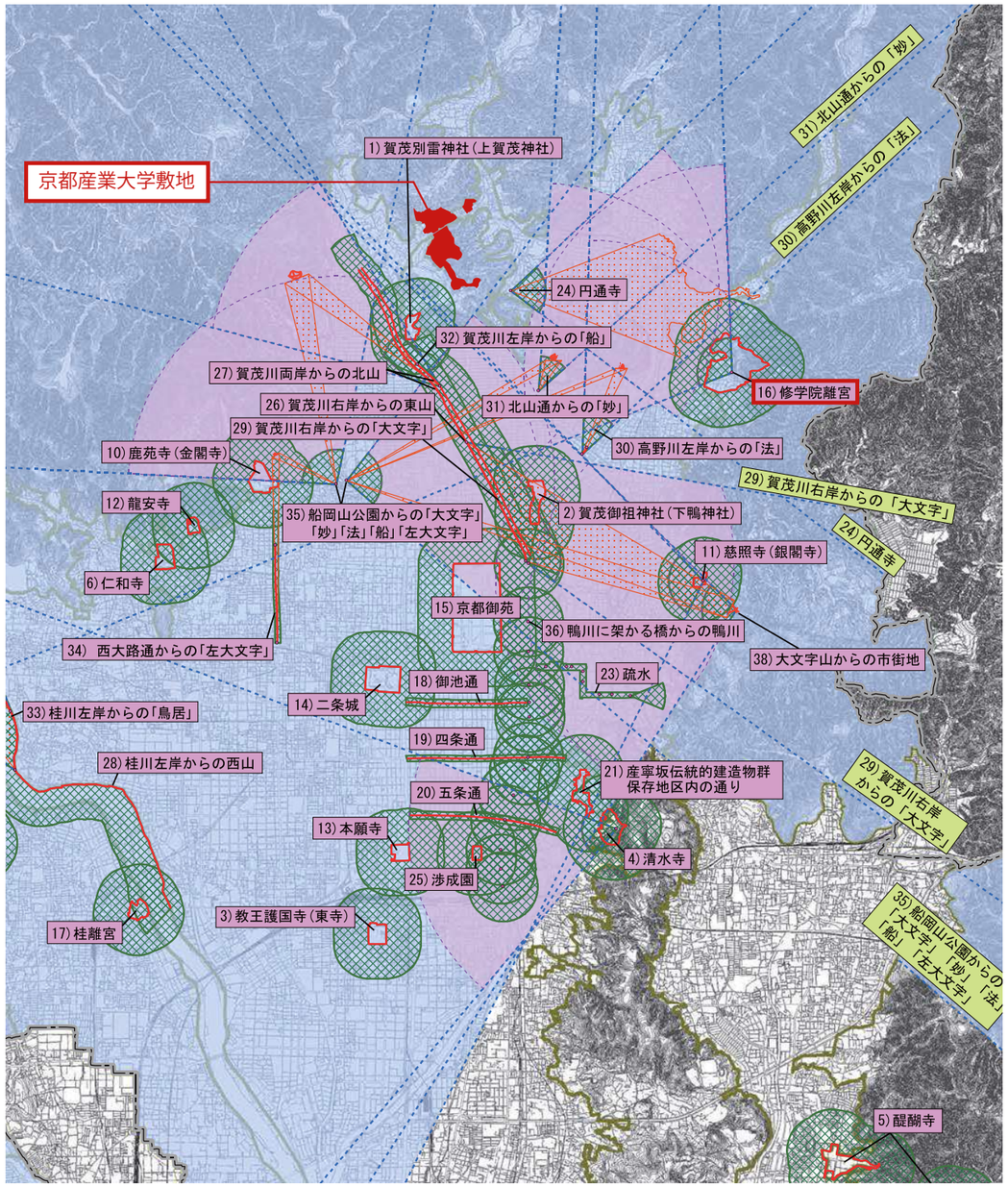
風致地区

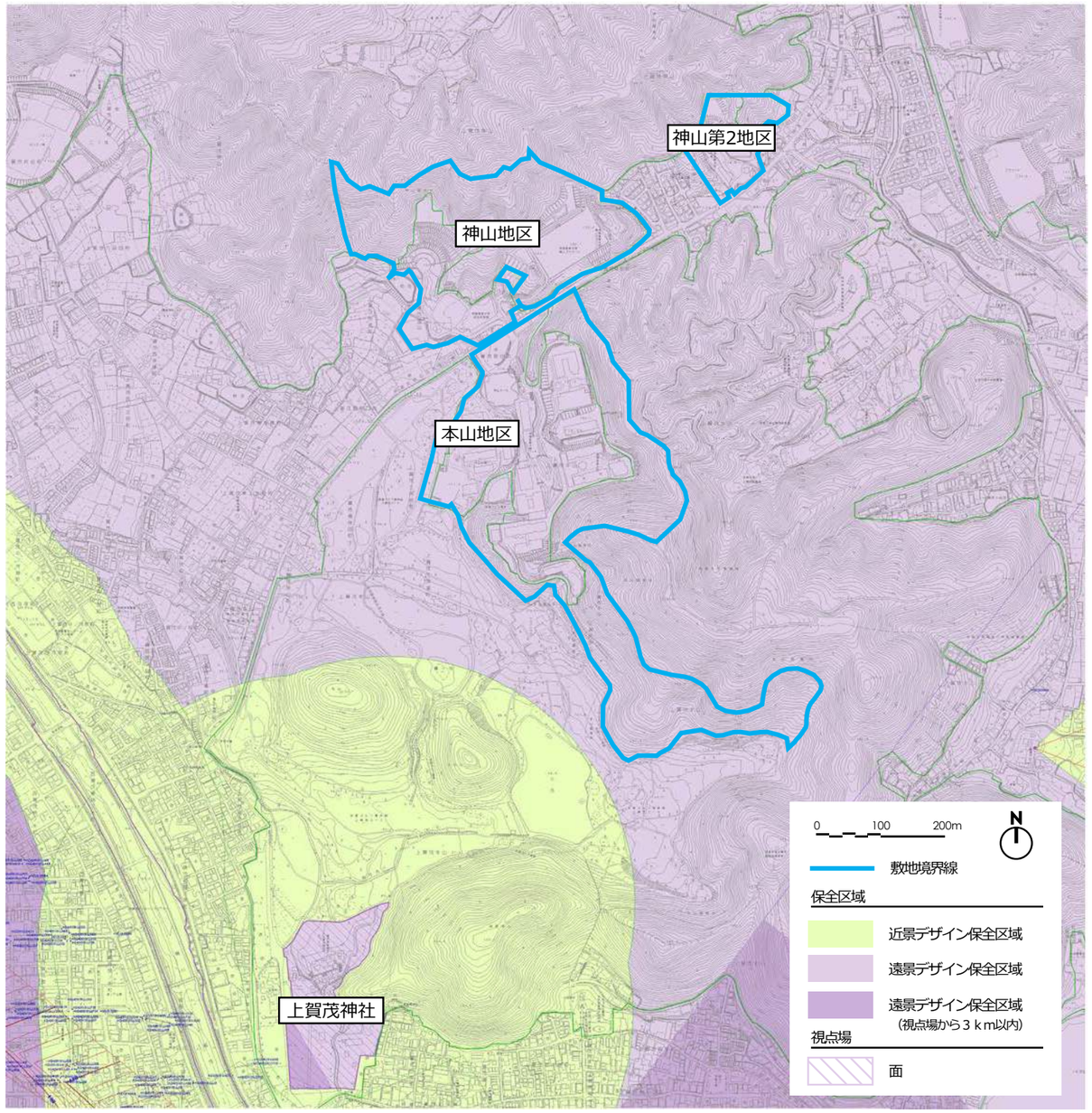
- 風致地区第１種地域
- 風致地区第２種地域
- 風致地区第３種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致地区特別修景地域

歴史的風土・緑地・自然風景

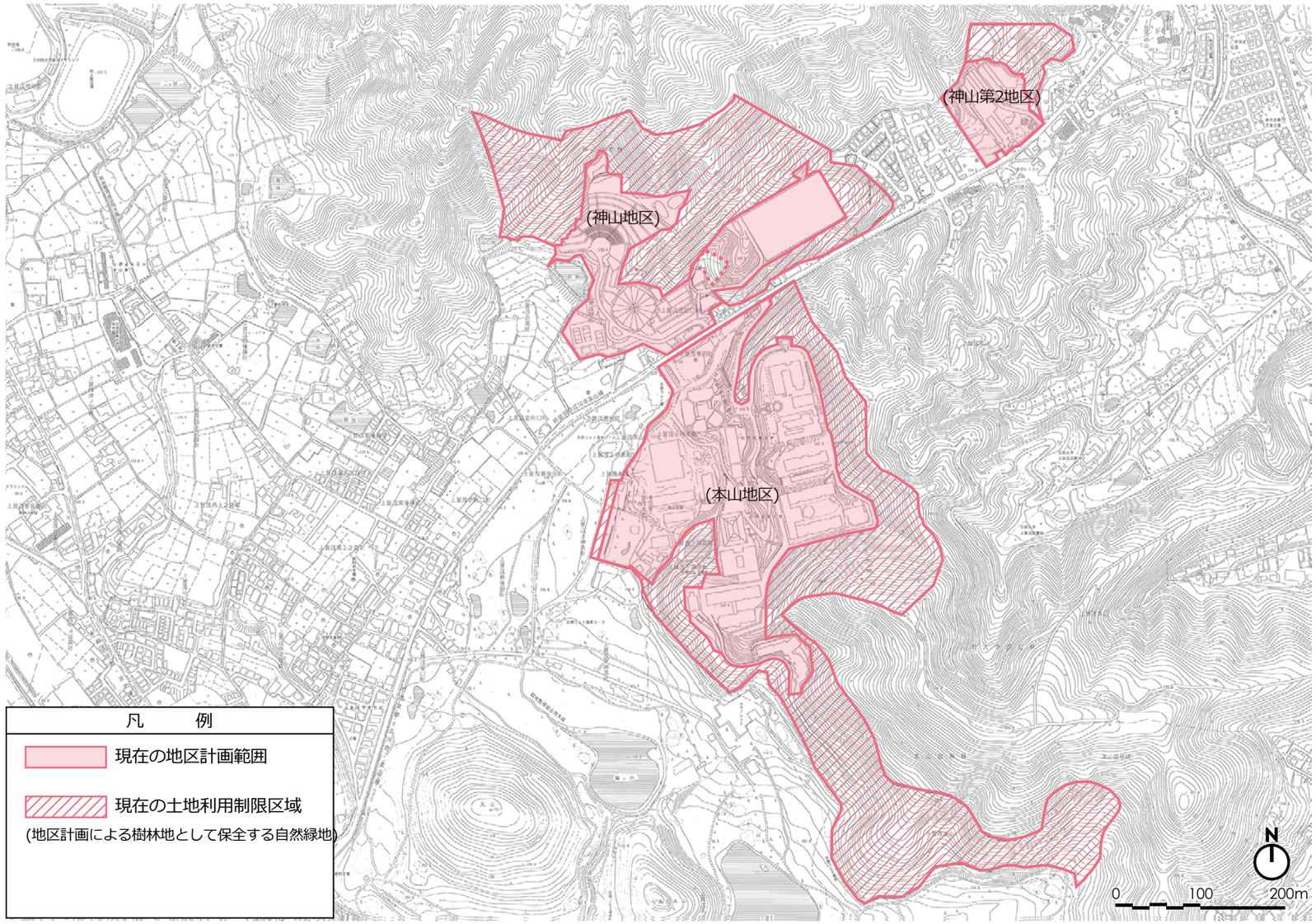
- 歴史的風土保存区域
- 歴史的風土特別保存地区
- 第1種自然風景保全地区

8.キャンパスの法規制：眺望景観





9.地区計画について



地区計画変遷

昭和60（1985）年	京都市地区計画制定
平成 8（1995）年	神山地区(約8.9ha)地区計画導入
平成12（1999）年	本山地区(約11.8ha),神山第2地区(約1.7ha),総合グラウンド地区(約8.2ha)地区計画導入
平成15（2002）年	神山地区第3地区(約5.9ha)地区計画導入
平成20（2007）年	地区計画の変更

京都都市計画（京都国際文化観光都市建設計画）
地 区 計 画 の 変 更 （ 京 都 市 決 定 ）

都市計画京都産業大学地区地区計画を次のように変更する。

名　称		京都産業大学地区地区計画
位　置		京都市北区上賀茂本山，上神原町，壱町口町，葵田町，神山及び左京区静市市原町の各一部
面　積		約　５１．６ヘクタール
区域の整備・開発及び保全に関する方針	地区計画の目標	当地区は，京都市街地北部の緑豊かな山麓部にあり，京都産業大学が，大学関連施設を集約している。総合大学としての多彩な機能を備えた当地区に対して地区計画を策定することにより，良好な教育･研究環境を確保するとともに周辺の自然環境と調和のとれた大学関連施設の誘導を図る。
	土地利用の方針	大学関連施設の整備と並行して敷地内の緑化を誘導するとともに，現存する森林の維持に努め，周辺環境と調和した土地利用を図る。
	建築物等の整備方針	建築物の用途を大学関連施設に限定することにより，用途の混在等による環境の悪化を防止すると同時に，建ぺい率，容積率，壁面の位置及びかき又はさくの構造等に制限を加えることにより，周辺の住環境及び自然環境と調和した施設を誘導する。

地区整備計画	地区の区分	地区の名称	本山地区	神山地区	神山第２地区	総合ｸﾞﾗﾝﾄﾞ地区
		地区の面積	約　２５．９ヘクタール	約　１４．８ヘクタール	約　２．７ヘクタール	約　８．２ヘクタール
	建築物等に関する事項	建築物等の用途の制限	次の各号に掲げる建築物以外の建築物は建築してはならない。 １　大学 ２　前号に掲げる建築物に付属する建築物 ３　バス停留所の上屋	次の各号に掲げる建築物以外の建築物は建築してはならない。 １　大学 ２　前号に掲げる建築物に付属する建築物	次の各号に掲げる建築物以外の建築物は建築してはならない。 １　大学 ２　寄宿舎 ３　前各号に掲げる建築物に付属する建築物	
		建築物の容積率の最高限度	１０分の６	１０分の２	１０分の５	
		建築物の建ぺい率の最高限度	１０分の３	１０分の１	１０分の３	
		壁面の位置の制限	１　建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から府道京都広河原美山線までの距離の最低限度は１０メートルとする。 ２　建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から敷地境界線（府道京都広河原美山線との敷地境界線を除く）までの距離の最低限度は５メートルとする。		建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から敷地境界線までの距離の最低限度は５メートルとする。	
			守衛所，自転車置場又はバス停留所の上屋その他これらに類するもので地上階数が１のもの及び玄関ポーチその他これに類する建築物の部分については，壁面の位置の制限にかかわらず建築することができる。			
		垣又はさくの構造の制限	敷地境界線に沿って垣又はさくを設置する場合には，可能な限り生垣等により緑化を推進することとする。			
	土地の利用に関する事項		計画図に表示する区域については，樹林地又は草地として保全する。			
備　考						

「区域は計画図表示のとおり」

理　　由

本都市計画は，京都産業大学の施設が立地する地区において，地区計画を変更することにより，大学周辺の住環境と自然環境との調和のとれた市街地環境の形成を図りつつ，良好な教育・研究環境を備えた大学関連施設の誘導を図るものである。

11.デザインコードについて

■建物外観デザインについて

マスタープランに沿って建替計画を行う中で、建物のデザインの基本方針を以下に定めます。

建物の外装仕上げや色彩を統一し、周囲の景観やキャンパスの全体イメージに調和・バランスさせることを基本方針とします。

外壁のデザインについては、学内の多くの校舎と同じようにレンガを基調とします。
質感の高いレンガを使用することで、壁面に表情を持たせた計画とします。

屋根については、切妻屋根に比べ軒先の高さを低くみせる寄棟屋根を基本とし、既存校舎との調和を図ります。また、素材も同様に既存校舎と同じ金属板段葺き屋根とすることで、素材の統一感を図ります。

■外装仕上げ

・屋根（勾配屋根）仕上材：金属板段葺き　　勾 配：3.0 ～ 4.5/10　　色彩：濃灰色 (マンセル値：N2.0)
仕上材：アルミルーバー　勾 配：3.0 ～ 4.5/10　　色彩：濃灰色 (マンセル値：N2.0)
（角型アルミ押出型材 100 × 60　@ 120 程度）
・外　壁　　仕上材：レンガ　　色彩：濃灰色 (マンセル値：N2 ～ 4.5)
コンクリートランダム目地仕上　　色彩：薄灰色（マンセル値：N6 ～ 8）
（※レンガ、コンクリート出目地仕上以外の素材を使用する際は、周囲の外壁、軒天等の素材との調和を考慮）

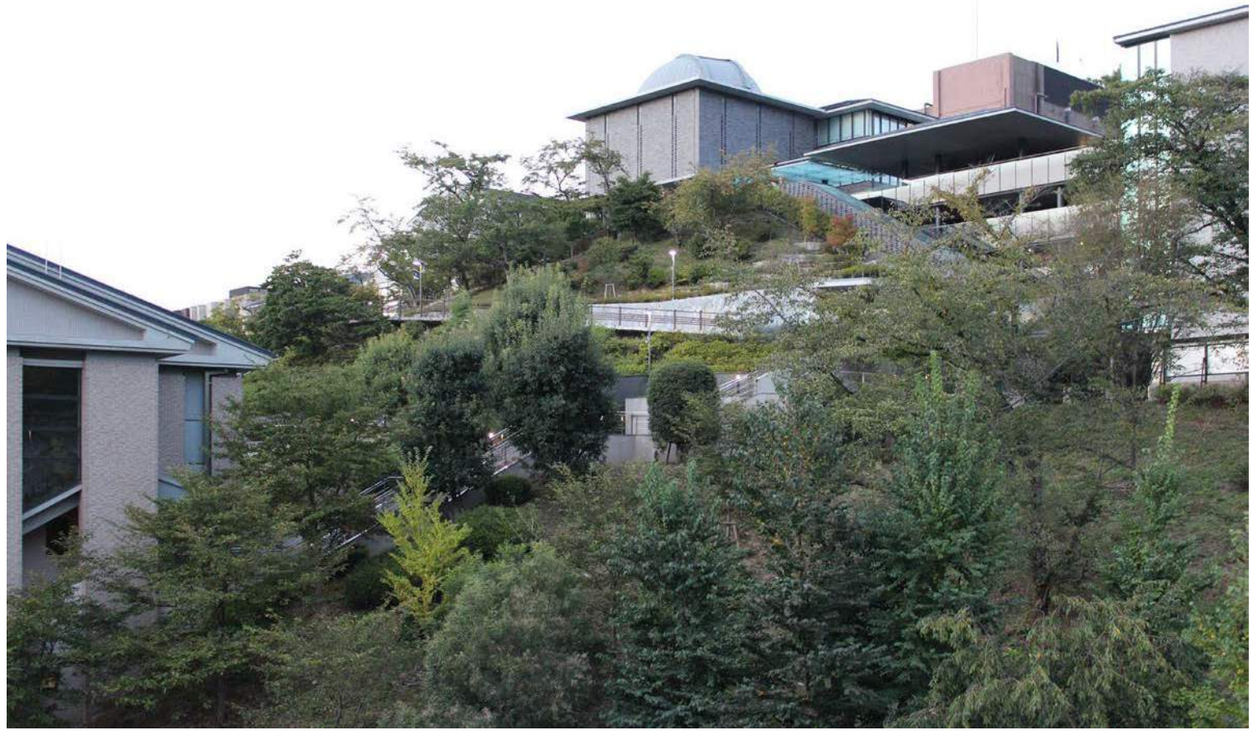
■屋上室外機について

基本的に室外機は、周囲から見えないように、屋上部に配置する計画とします。場合によっては、室外機が外気に対して有効に吸排気が行えるよう、ルーバー等を設置する計画とします。

（既存 14 号館俯瞰写真）

■渡り廊下・ブリッジ等の屋根について

渡り廊下・ブリッジ等に屋根を設ける場合は、外観上の存在感を抑えるため、見つけを薄くする等の工夫を凝らし、また周囲の既存建物との調和を図ります。さらに、場合によってはガラス等の素材を用いることによって、棟同士がつながって見えないように配慮します。

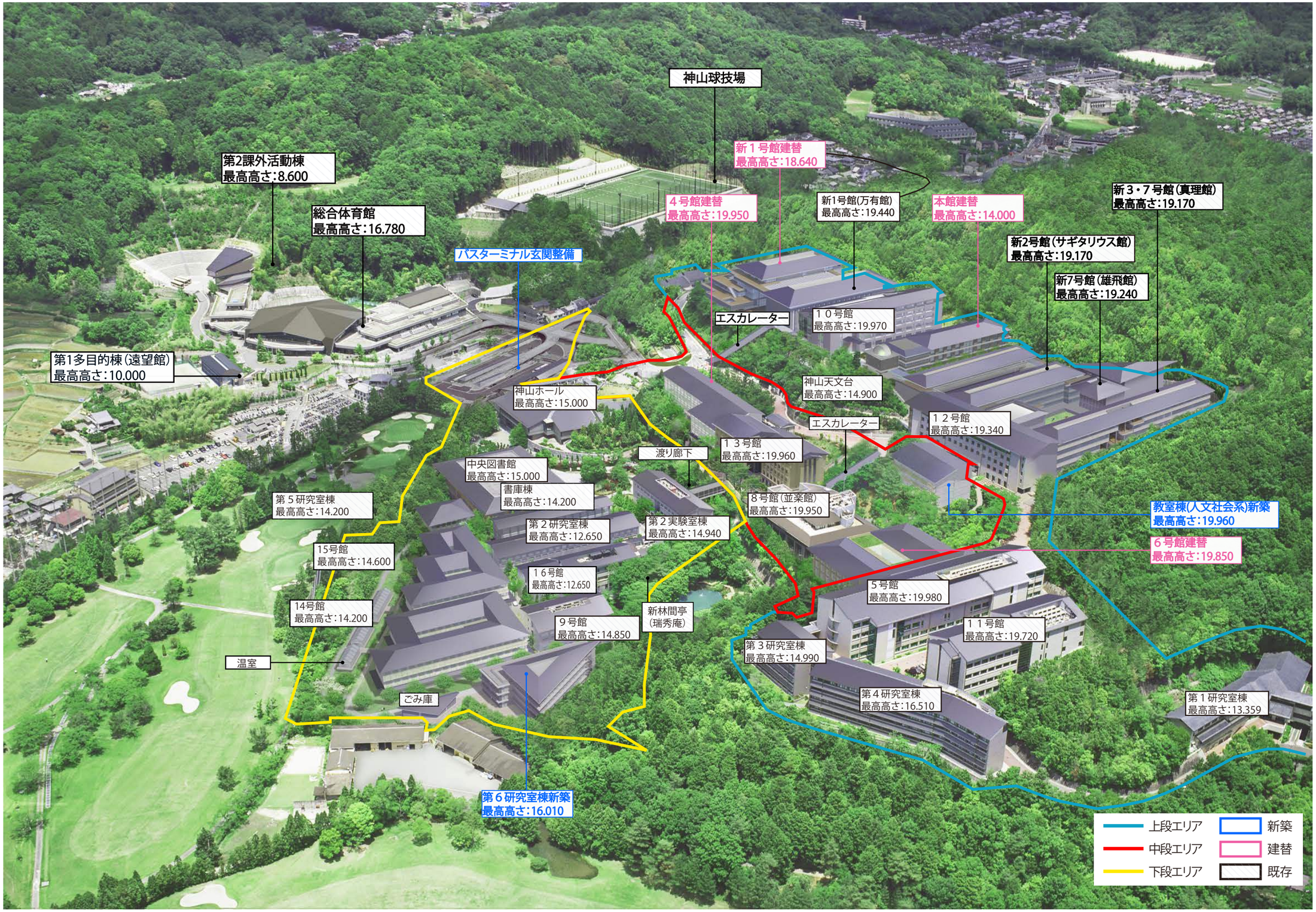


外装仕上げの様子 寄棟屋根 ： 金属板段葺き　外壁：レンガ（既存天文台）

外壁：レンガ（既存 15 号館）

外壁：コンクリートランダム目地仕上（既存新 2 号館）

12 . 本山地区の整備シミュレーション図



13. 整備状況

□策定時期　（当初）平成 20 年 7 月（平成 20 年 7 月　景観専門小委員会諮問）
（修正）平成 24 年 7 月（平成 24 年 6 月　景観専門小委員会報告）
（※主な修正内容：新 7 号館、温室、茶室の追加）

□計画年次　平成 20 年（2007 年）～平成 35 年（2023 年）

□マスタープランの概要等

【目的】

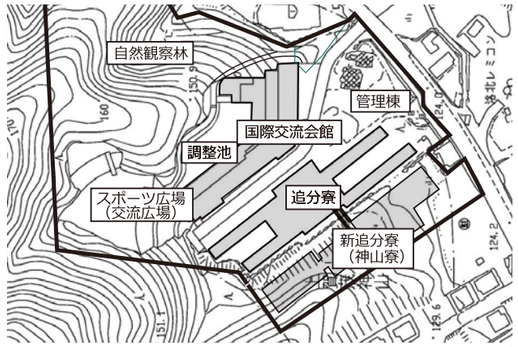
・大学の基盤整備から新学部の為の施設整備と既存施設リニューアルへの移行
・教育、研究施設の集約と高機能化、眺望景観及び自然環境の保全等に配慮したキャンパス整備

【整備概要】

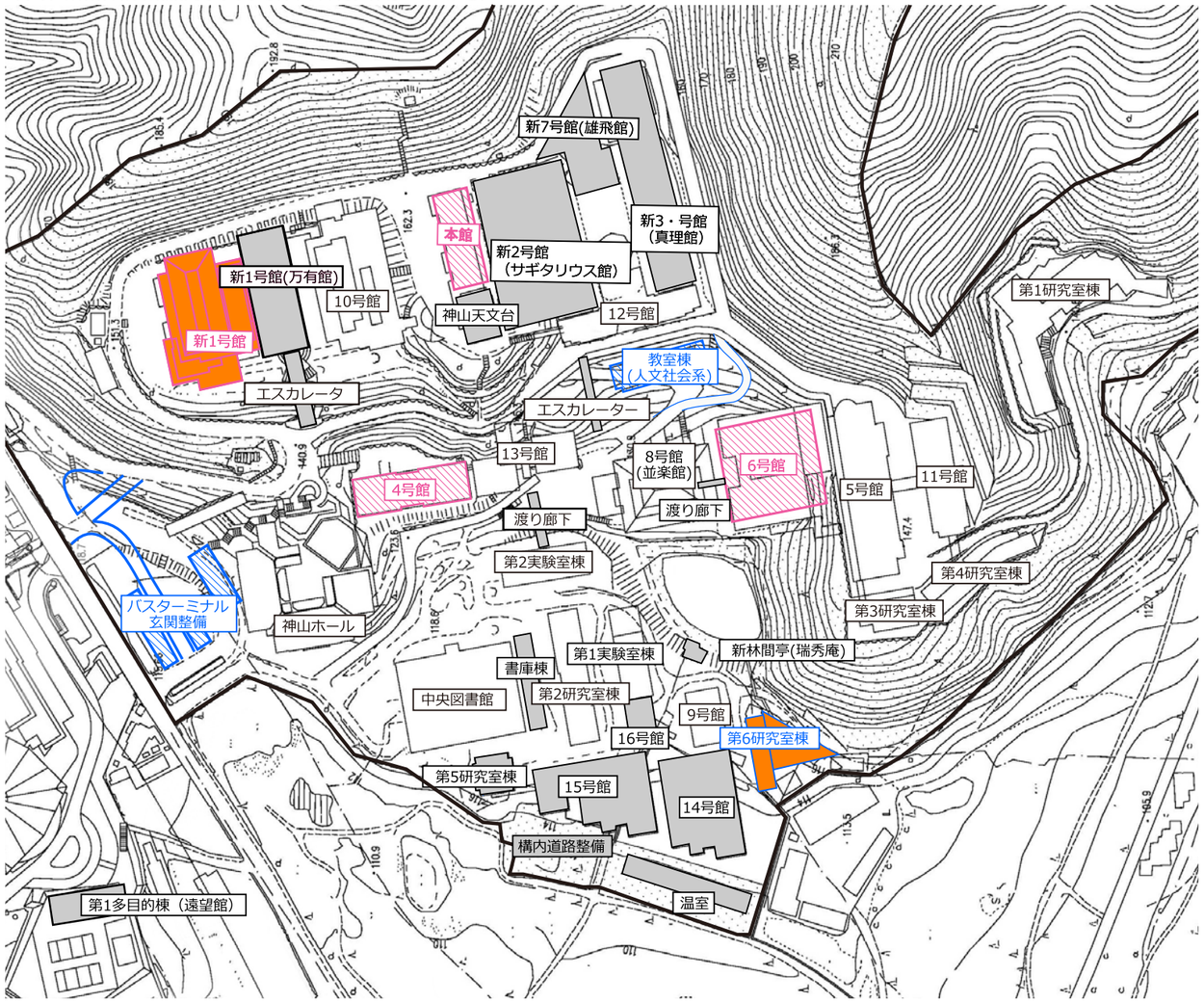
整備予定建物名称	進行状況（2018/07 現在）
①新 1 号館	今回計画建物
②新 2 号館（サギタリウス館）	済
③新教室棟	済
③新 3・7 号館（真理館）	済
④ 4 号館	未了（建替予定）
⑤ 6 号館	未了（建替予定）
⑥新 7 号館（雄飛館）	済
⑦本館	未了（建替予定）
⑧神山天文台	済
⑨新 1 号館（万有館）	済
⑩バスターミナル玄関整備	未了（新築予定）
⑪ 8 号館前エスカレーター	済
⑫書庫棟	済
⑬第 5 研究室棟	済
⑭ 15 号館	済
⑮ 14 号館	済
⑯構内道路整備	済
⑰第 6 研究室棟	今回計画建物
⑱ 16 号館	済
⑲教室棟（人文社会系）	未了（新築予定）
⑳温室	済
㉑新林間亭（瑞秀庵）	済
㉒ 6 号館渡り廊下	済
㉓第 2 実験棟渡り廊下	済
㉔エスカレーター	済
㉕第 1 多目的棟（遠望館）	済
㉖新追分寮（神山寮）	済
㉗温室（移設含）	済

⇒未整備建物　5 棟
（今回申請建物除く）

神山第二地区



本山・神山地区



凡例

今回計画建物　新築予定施設　建替予定施設　建設完了施設

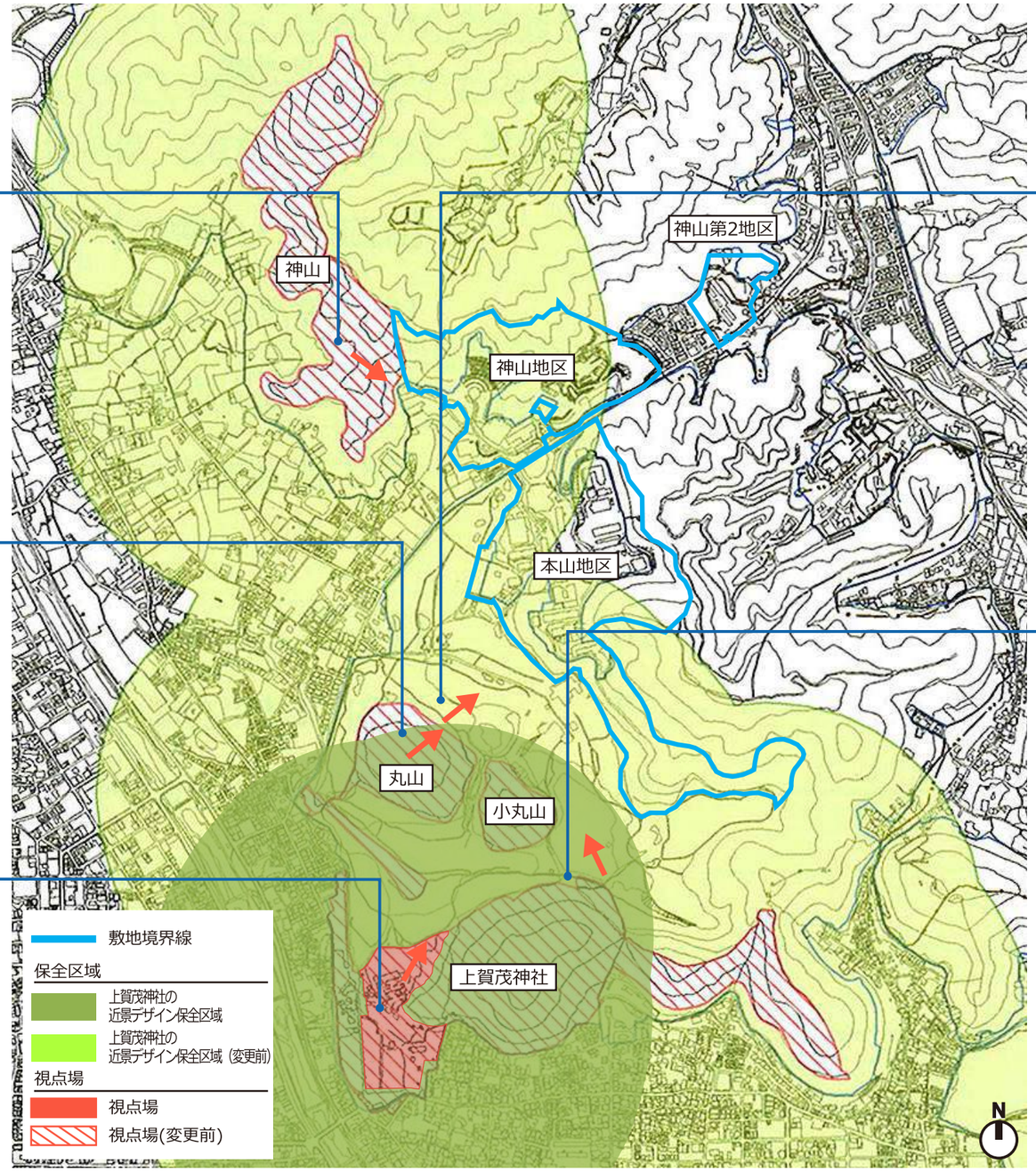
14. 眺望景観について

遠景デザイン保全区域の「清水寺」「修学院離宮」からは本山をはじめとした大学周辺の山にさえぎられ、まったくキャンパスが見えません。
近景デザイン保全区域としては「上賀茂神社」がありますが、
①「上賀茂神社」「丸山」「小丸山」からは、ゴルフ場との境界付近において一部上段エリアの建物の屋根が見えますが、それ以外の場所では樹木でさえぎられ、キャンパスが見えません。
②「神山」からは、神山周辺の樹木にさえぎられ、キャンパスが見えません。
したがいまして、眺望景観には影響がありません。

神山

丸山

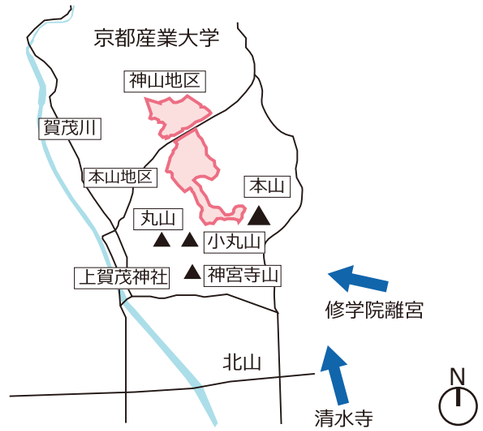
上賀茂神社



丸山

上賀茂神社

○ 附近見取図



15 . キャンパスが見える箇所の確認

周辺地域における実際のキャンパスの見え方を高さ方向に分類するとキャンパス全体が見える場所から、キャンパス上部の施設だけが見える場所までいくつかの種類に分けられます。このことは、本学キャンパスが本山裾野の起伏に富んだ場所に位置していること、周辺敷地が賀茂川を挟み東西両方に山々が連なる地形になっていることからです。キャンパスが見える箇所の確認にあたっては、キャンパス上段部分、中段部分、下段部分が見える範囲を確認し、賀茂川左岸 4 カ所、右岸 10 カ所を選定しました。この 14 か所から計画に合わせてその都度シュミレーション箇所を選定します。

賀茂川右岸　（西賀茂）

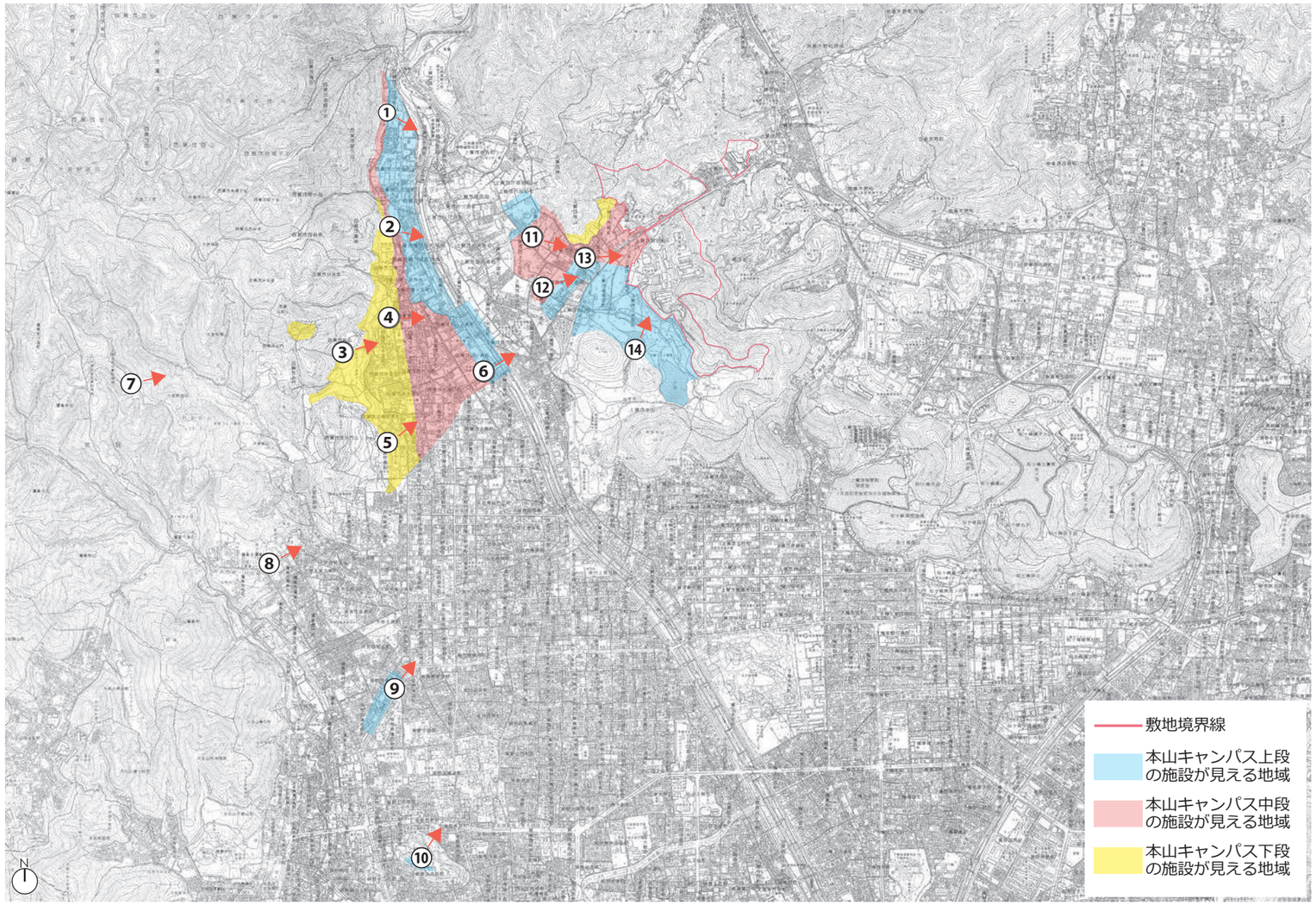
①：西賀茂下庄田町

②：西賀茂蟹ケ坂町

③：船山（京都ゴルフ倶楽部内）

④：西賀茂北川上町

⑤：西賀茂北鎮守菴町



賀茂川伊左岸　（本学側）

⑪：上賀茂西後藤町

⑫：上賀茂東上之段町

⑬：上賀茂壱町口町

⑭：京都ゴルフ倶楽部

⑥：西賀茂橋

⑦：釈迦谷山

⑧：鷹峰

⑨：紫野西泉堂町

⑩：船岡山公園

16. 景観シミュレーション選定箇所

①：西賀茂下庄田町

②：西賀茂蟹ヶ坂町

③：船山（京都ゴルフ倶楽部内）

④：西賀茂北川上町

17.景観シミュレーション選定箇所

⑤：西賀茂北鎮守菴町

⑥：西賀茂橋

⑦：釈迦谷山

⑧：鷹峰

18.景観シミュレーション選定箇所

⑨：紫野西泉堂町

⑩：船岡山公園

⑪：上賀茂西後藤町

⑫：上賀茂東上之段町

⑬：上賀茂壱町口町

⑭：京都ゴルフ倶楽部